

第2部

大討論会

ロケーション環境を考える

出席者プロフィール

成田 裕介 (なりた・ゆうすけ) 映画監督 日本映画監督協会常務理事

1971年県立秋田高校卒。1976年若松プロにて若松孝二、高橋伴明に師事。1987年TV『あぶない刑事』で監督。主にTV、Vシネマで活躍。

主な作品：映画『バカヤロー！ 2』・『六本木バナナボーイズ』（1989年）『あぶない刑事 FOREVER』（1998年）『実録・夜桜銀次』（2000年）、Vシネマ『凶悪の紋章』（1990年）『死神の死者』（1991年）『ビーバップハイスクール』（1995年）『アナザーダブルエクス』（1997年）

田中 まこ (たなか・まこ) 神戸フィルムオフィス代表

1955年大阪府生まれ。小学校から大学までをアメリカと日本で半分ずつ過ごす。大学はUCLAとICU（国際基督教大学）でマスコミを専攻。卒業後はテレビ・ラジオ番組の制作、テレビ・CF撮影のコーディネーター、DJ、MC、海外渉外、通訳などを手がける。

2000年9月に神戸フィルムオフィス代表に就任。以後、神戸に300本以上の映画、番組、CF等の撮影を誘致し、公道を封鎖しての爆破シーンや地下鉄線路内での撮影を支援。2001年～2003年、国際フィルムコミッション協会(AFCI)理事。2001年～現在、全国フィルム・コミッション連絡協議会理事。

境 真良 (さかい・まさよし) 経済産業省 商務情報政策局文化情報関連産業課 (メディアコンテンツ課) 課長補佐

1968年東京都生まれ。平成5年、大学を2回卒業後、通商産業省入省。資源エネルギー庁公益事業部計画課（電気事業法改正担当）、国土庁地方産業振興室、瀋陽総領事館大連事務所勤務の後、現職。

現在は、コンテンツ産業の海外展開支援と構造改革支援等を担当。アジアの都市文化融合現象を15年追っており、趣味は海賊版収集。その他、アイドル研究、読書（マンガ）、コンピュータいじりが趣味。

片山 敏宏 (かたやま・としひろ) 国土交通省 総合政策局観光部観光地域振興課 課長補佐

1970年生まれ。福岡県出身。1994年運輸省入省。航空局総務課、海上交通局海事産業課、情報企画課、運輸政務次官付秘書、運輸大臣秘書室、会計課を経て、東北地方整備局用地第一課長として仙台に赴任。2年間で東北の観光地の今を幅広く見聞。

2003年6月より政府の「観光立国、訪日外国人旅行者倍増」のスローガンのもと、外国人旅行者の受け皿としての国内観光地の魅力アップを模索中。日本文化に敏感なアジアからの観光客が主流になりつつある現在、映画のロケ地は一夜にして大観光地になりえる可能性を秘め、外国人旅行者倍増の起爆剤となることを期待。

坪田 知広 (つばた・ともひろ) 文部科学省 生涯学習政策局政策課 課長補佐

1992年文部省入省。私学行政課、放送大学企画室、社会教育課、国際企画課、競技スポーツ課などを経て、1999年には警察庁に出向。2001年7月まで愛知県警少年課長として勤務。その後、文化庁芸術文化課課長補佐となり、2003年10月より文部科学省に異動。

文部省競技スポーツ課時代は、課長補佐、プロスポーツ官、2002年ワールドカップ準備室室長補佐、国立スポーツ科学センター設立準備室主幹と4つの肩書きをもち、多忙を極めた。文化庁芸術文化課課長補佐の時は、芸術文化全般の企画立案を担当、「映画振興」についての専任担当を勤め、当コンベンションの企画者でもある。

◇モデレーター

前澤 哲爾 (まえざわ・てつじ) メディアプロジェクトプロデューサー、全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事

慶応義塾大学文学部哲学科卒業。ソニーPCL株式会社入社。1986年からハイビジョン推進を担当し、『帝都物語』（実相寺昭雄監督・1988年）『舞姫』（篠田正浩監督・1989年）『夢』（黒澤明監督・1990年）などで、技術プロデューサー。同時にハイビジョン作品制作やオピニオンリーダーを務める。日韓の映画制作支援プロジェクト (F-MAP) を担当後、2002年9月退社。1999年から日本にFC設立すべく、研究会を立ち上げ、世話人をする。昨年は東京国際映画祭ニッポン・シネマ・フォーラムのディレクター。

2003. 10. 24

モデレーター 前澤作成

日本は、海外の国に比べて、ロケーション撮影が困難な国だと言われる。近年、フィルムコミッション活動の大きな流れの中で、少しずつではあるが環境は良くなってきたようにも見える。たとえば、ハリウッド映画はアメリカやカナダの都市部で大掛かりな撮影をしているが、そういう撮影がはたして日本で可能になるのか、どうすればなるのか。すべてのことは、急には進まない。そこに行き着くまでの道程をどうイメージできるか。映画、フィルムコミッション、関係省庁の各担当者が、ここで初めて公開討議をする。

1. ロケーション撮影が困難であると言われているもの。

道路封鎖を伴う道路上、高速道路、橋での撮影、
銀座、新宿、渋谷など繁華街での撮影、駅、電車内、港湾、飛行場での撮影、
海岸、河川敷、農業用地、林間に仮設建築物を作る撮影、
都市部での低空の航空撮影、公立学校・公立病院などでの撮影
歴史的な趣のある遊休国有財産の撮影、税関での撮影、
公立博物館、美術館での撮影、国立公園立ち入り禁止区域内での撮影、
刑務所・拘置所内での撮影、歴史的な神社仏閣の撮影、
高級住宅街での撮影、住宅地での夜間撮影など。

2. 撮影ができない、もしくは撮影を断られる主な理由。

- 厳しい撮影条件があり、実質的に撮影できない
- 撮影した前例がないので、門前払い
- 勤務時間外までの撮影なので、協力できない
- 担当できる職員を配置できないので、協力できない
- 撮影は管理が難しく、何かあった時、責任がとれない
- 近隣から苦情がくるのでは迷惑だ
- 映像作者とのトラブル経験があり、絶対にイヤだ
- 通行者からクレームがくると対応できない
- 公的な施設なので、商業的な撮影には貸さない
- 貴重なものがあり、損傷が恐い
- 客や利用者から、困ると言われる
などなど。

3. 撮影の困難性は、はたして規制からきているのだろうか。

多くは、明確な規定はなく、現場担当者の裁量や判断に任されている。

撮影を受け入れる環境作りとは、どういうことなのか。

また、撮影が困難かどうかは、地域によって大きく異なる。

地方では、警察署がバックアップしてくれるところもある。一方、東京は難しい。

では、どうすればさらに改善できるのか。第2部では、これを論議したい。

司会 お待たせいたしました。只今より、第2部を始めさせていただきます。いよいよ大討論会「ロケーション環境を考える」が始まります。パネラーの皆さんをご紹介しますので、お一人ずつ壇上にお上がり下さい。

始めに神戸フィルムオフィス代表の田中まこさんです。第1部に引き続いて参加されます。よろしく願います。

フジテレビジョン映画事業局長の亀山千広さんです。今度は、撮影環境に絞って、論議に参加していただきます。

映画監督で、日本映画監督協会常務理事の成田祐介さんです。監督協会として、京都や東京都に対して撮影環境の改善等を提案しています。

続いて、経済産業省 商務情報政策局文化情報関連産業課課長補佐の境真良さんです。地域への上映活動を推進する「デジタルDEみんなのムービー」プロジェクトや東京国際映画祭等を担当されています。

文部科学省 生涯学習政策局政策課課長補佐の坪田知広さんです。先週まで文化庁文化部芸術文化課で、映画振興を担当されてきました。このセッションの企画者でもあります。

国土交通省 総合政策局観光部観光地域振興課課長補佐の片山敏宏さんですが、ただいまご到着が少々遅れていらっしゃるようです。ご到着次第、御登壇していただきたいと思ひます。

最後に、コーディネーターの全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事の前澤哲爾さんです。それでは前澤さん、よろしく願います。

前澤哲爾 今から第2部を始めさせていただきます。お手元の資料の中に、第2部のパネラー紹介と裏側ですが「ロケーション環境を考える討議用資料」というのがございます。パネラーの方でお持ちでない方はいらっしゃいますか。この資料を眺めながら、進めさせていただきますと思ひます。

今回は、一人ずつお話しを順番に同う事ではなく、打ち合わせを全くなくぶっつけ本番の討論会にします。順番に指名してお話しいただくようにはしません。アト・ランダムで発言していただきたい、という事で始めさせてい

たきます。ただ、問題提起というか一番最初に何が問題かという事が分からないと、話が始まりません。

そこで最初の発言は、フジテレビで映画制作経験の豊富な亀山さんに、口火を切っていただきたい。第1部で色々触れられておりましたが、実際に日本の撮影環境は貧しくて、世界的にもロケーションが出来にくい国のひとつになっていると言われていす。海外からもなかなか撮影に来ないのも、彼らのルールがなかなか日本で使えないので実際には撮れないという事で、逃げてしまう事が多いんですね。そういった経緯を踏まえて、日本の撮影現場で何が問題かを発言いただきたいのです。

亀山千広 率直に最近思っている事は、日本は土地が狭いんだなという事です。**前澤** 結論ですね、それは、

亀山 やっぱり、生活と必ず密着している所に色々な場所が当然ありますから、その一角を借りても、色々な方の生活をどこかで犠牲にしていたかかないと撮影出来ない。それに対して理解をして貰う努力を制作者・住民がお互いにしていかないと、という事が全てじゃないかなと思ひます。

一番はっきり分りやすいのは、第1部で島田さんがおっしゃったロサンゼルス例です。ここに行きますと、映像制作は、はっきりと経済活動の一環だと実感されている。映画スタジオが、外貨を獲得する為の映画を作っている。その為、ロサンゼルスの人達の税金というのは、スタジオ側が沢山納めていますから安い。ニューヨークに比べても、何処に比べても。その結果生活の環境は当然良くなる。自分達の税金が安いのは、映画が儲かっているからと自覚している。ですから目の前でロケをやっている映画に対しても、当たり前の話、金づるに見える。つまり、市民が自分の税金が高くなるにない為にも、この映画に協力する事は大事だと日常飯事になっている。

それと同時に、お巡りさんの非番のよいバイトと言ひますか、制服でバイトをしている。入り口に立つとお巡りさんが、向こうから迂回すると、普通の警備員さんじゃない方が言うと、や

っぱりそれなりに説得力がある。聞けば、非番のお巡りさんが制服で出てきて、1日くらいというところで、日本で言うところの、青灯、赤灯を振っているという事だと思ひます。それは、全て生活の環境とか、経済が全部そうさせている面もあるでしょうが。

翻って日本の場合は、どうしたって、1本道をお借りして封鎖するといひても、それに協力的な方とそれによってある不都合が生じる方との利益は絶対1つにならない。そしてそれを凌駕する説得力があるかという、無。唯一あるとすれば、人気者がそこにいる事だったり、テレビでよく見た大スターとか、有名な方がいるという事です。まあしょうがないかと立ち止まって、遠目に見る。しかし撮影の都合上、あんまり近寄らせる訳にはいかないから、どんどん遠目になり不満が爆発すると撮影できなくなる。

何が言いたいかという、具体的な問題点というよりも、多くのところでロケーションをする町の人の意識が慣れていなかったりすることが結構多いかなという気が正直します。反面、ロケーション慣れしている、例えばよく時代劇で使われている土地であるとか、自ら誘致している場合では、それは全然違うと思ひますね。

各地から、「我が地域にこんな新しいロケ現場が出来ました」と写真を送って下さることが多いのですが、それよりも話のネタを送って下さった方が、有効かなと思ひます。というのは、80年代のホラー物でカルトムービーで有名な、トビー・フーパー監督の「悪魔のいけにえ」というシリーズ作品がある。これは、チェーンソーで人を切り刻んだ脅迫犯がいるという話を、その地元とフィルムコミッション（以下FC）が金を出して、殺人鬼の話に仕立てて売り込んだ経緯があるからです。この10月初旬に、20数年ぶりのリメイク作品が制作されアメリカで公開されいきなり初登場全米1位です。つまり、興行になる訳ですね。それも前作と同じ土地で撮っている。こんな連続殺人犯がでるホラー物語は、本当なら自分の村だったら忌まわしい記憶な訳ですね。しかし、それを記念として映

画にしておこうとって、お金を自ら地元の人達が集めて仕掛ける環境は向こうにはある。元々映画や映像に対しての意識の仕方の違いだと思います。そんな内容でも作品が成立しちゃう国が向こうにあると、日本がどう対抗しても、対抗できない、という気も正直するのが現状ですよ。

でも日本でも、やっぱり僕らテレビとかメディアが、もっと映像に対して意識を向かせる事とかをやる事も必要ですし、同時に行政の皆さんも、もう少しその辺に目を向けていただきたい。前澤 亀山さん、ご存じでしょうけど、フジテレビが関係している作品で、ウラジオストックで撮影した作品があるんですね。私が先日ウラジオストックにFCを作りに行きまして、そこで撮影しているのを見ました。警察の全面協力なんですね。道路を封鎖して撮影しているんですね。特別に映画制作が発展してる場所ではないけれど、協力体制を組もうと思えば組めるというのがあるんですね。

亀山 その作品は、スマップの草薙君の映画で、チョナン・カンの映画「ホテルビーナス」というのをウラジオストックで架空のアジアの何処かという設定でやっているんです。全編韓国語の変な映画なんですが、ウラジオストックの人たちが非常に協力的でした。言い方悪いですが要は経済ですね。僕らが持って行く外貨です。ここにロケーション費用でお金が落ちます。

実は撮影時に一人ケガをしまして、即現場からバトカー2台の先導で病院までわずか5分。そして病院も現地では珍しい、非常に素晴らしい環境でした。しかし日本に帰りたいって言う話になりまして、それもすぐOKで空港まで警察の先導が付いた。

前澤 有り難うございました。では成田さん。これまで相当撮影の時に苦労されてきていると思います。元々、インディペンデント志向で、昔はグリラ撮影ばかりやっていたんだと思うんですけど。今、監督協会常務理事という立場で、オフィシャルな感じになっているんで、グリラ撮影が良いとは言はないとは思いますが。ただ、それはしょうがないですよ。撮影出来な

れば、グリラでやるしかない。それでは、作品が成立しない。そこで改めて、いったい今まで何に苦労されてたかを伺えますか？

成田祐介 立場を考えずに、個人的な事を申し上げます。ロケーションやって一番やばいのが、その筋の関係の方とそれから帽子被った記事つけた国家権力の方が来てですね、「おい、許可取ってるのか」です。

第1部でどなたかが発言しましたが、昔はロケーションマネージャー（今で言うと制作担当、制作主任ですか）が彼らと交渉している間に、撮影をやっちゃえという様な事がよくありました。ところが最近のそういう方々は、非常に撮影の事を分かっている。レンズのどまん前で動かないんです。これはもう如何ともしがたい。

もちろんあえてグリラ撮影で、映画としての緊張感を出すといった作品もかなりある訳です。古い話で恐縮なんですけど、例えば大島渚の「新宿泥棒日記」では、手持ちカメラでガンガン伊勢丹デパート内を駆けめぐった、乱暴でラジカルな映画もある訳です。かといって、許可無く撮影した方が良いのかと言えばそうでもない。圧倒的に現場は時間との戦いであり、撮らなきゃ何にもならないという訳ですから。

四半世紀近い経験から、非常にバジエットの低い現場の話をしますと、有名な俳優がいない作品や、僕みたいなあまり有名でなくかつ、新人でもない一寸とうが立っている様な監督の場合は、なかなか現場的に撮影の許可が出ない訳なんですね。基本的に文化力云々という事で官公庁なり、行政がバックアップしてくれると言いながらもですからね。

前澤さんにまとめいただいた道路封鎖云々の資料は、非常に問題点が良く書かれていると思うんです。例えば、ここにお集まりの皆さんで道路使用許可のお値段というのをだいたい知ってますか。

前澤 FCの方々には知ってますよ。

成田 そういうところから、始まる訳なんですよ。都内であれば大体、1カ所2,000円位ですか。全国ならしても、2,500円程度かと思う。そしてそ

れに係わる労力、手間です。都内では道路使用許可申請をして、中三日で下りる。でも地方に行くと、1週間ぐらいかかる。何でそんなに時間がかかるのか。だいたいからしてその2,000円は、単なる事務手数料なのか、道路使用料なのか。道路使用許可と言えば皆さんもご存じかと思いますが、撮影に関しては、厳密に言うと違うんですが、道路工事と同じ扱いなんです。

ちよっと話が飛びますが、亡くなった松田優作という僕の大好きな俳優が、生前残した1本の映画、彼が唯一監督した「ア・ホームズ」があります。新宿の歌舞伎町で撮影したんですけど、30秒の長回しで、何回やってもうまくいかない。というのは、役者がそばに来てカットする寸前に酔っぱらいが、ピースサインを出すんですね。ご存じだと思うんですが、何せ非常に瞬間湯沸かし器みたいな人ですから、それは止める方も大変だったろうと思うんですが、彼はその酔っぱらいに対してですね、「てめーこの野郎、映画も観るだろう。テレビも見るだろう。俺らは、今それを撮影しているんだ。じゃますんなこの野郎」という様な事を言った。

つまり、映画という事に関して文化という様な偉そうな事言いませんが、今はやりの言葉で言えば、リスペクトって言うんですか。そういう様な意識が、皆さん持って頂けると非常に嬉しい訳なんです。

かといって僕もいい加減でね、町歩いていて口の利き方知らない制作進行に、「撮影ですから、一寸待って下さい」と言われる。「何この野郎監督呼んでこい」なんていう風な事を言いますけれど。口の利き方一つなんです。ところがですね、これ一般の方も同じだと思うんですが、強面のお兄さんが、「撮影ですから待って下さい」「はい、わかりました」すぐなりますわな。それと、お巡りさんに「ちよっと待ってくれ」と言われたら、かみつく奴もいますが、大概待ちますわね。そういう国民性として、やっぱ権力とか権威に弱いのかなどという気が少しあります。ですから、もっとこう行政や省庁も含めて全体として映像教育が大事ですよ。

僕は常日頃、本当に言うんです、学校教育、小中学校には美術とか音楽とかがありますね。なんで、映画のノウハウがないのか。本来はそこから始める訳ですよ。これは極論ですけどね。

そういった事も含めて、撮影のことに関するすそ野を広げて、さっきFCの方が少しおっしゃってましたが、映画を作るメカニズムに対して、「住民の我々が協力しているんだ」という意識を育てたいですね。FCの中にはそういう方もいるし、観光誘致の目的とする方もいらっしゃると思うんですが、大事なのはむしろ前者の方だと思うんですよ。映画って非常に、難しいというか、本当に多くの方々がいないと出来上がらない総合芸術だと思うんです。そういったすそ野を広げる意味での皆さんのバックアップが向いてくれると非常に助かる。

さらに、本当に官公庁の建物が撮影に使えない。所謂、役所が管理するものが使えない。行政が率先してやらない事は一般には伝わらないですよ。

何人が制作担当に聞いたんですが、一番問題は、都内では道路使用許可の問題があります。まず、新宿、渋谷、銀座、撮影許可が何故か下りない。繁華街だからという理由で、安全が保証出来ない。東京を代表する繁華街なのになぜ撮れないんだ。こんなところが。

必然的に無許可で、盗み撮りを遣らざるを得ないですよ。

前澤 基本的にはそうなりますね。

成田 そうですね。さらに公園に関しては、基本的には認められているのは、9時から5時までの間です。中にはナイターでやっていますが、あれは公園の管理人による裁量の内だったり、所謂無許可でやるか。それと、公園では基本的には、厳密にいうと三脚立てる事できないですよ。

前澤 条件ですよ。

成田 そうです、条件の中に。都の公園緑地では、ルールや移動車も引けない。イントレも置けない。なんでそんな、我々の撮影の常識からするとばかばかしい条件なのか。そういった事からまず初めていただくと、現場的には非常に助かります。どうしても、撮影許可が下りない所は、さっきの神戸の

例じゃないですが、菱形のああいっただ所をお願いするとか、我々も良くやります。現実渋谷じゃ、どういう基準が分からないけどT興行という所に頼むと、だいたいOKなんです。テレビは5万、映画は10万。これは10年、相場が決まっているんですが。不思議なところがあります。

あと、場合によっては、国会議員の先生を使うとか。そうすると下から行っても駄目なのに、上から行けばいいの、となる。そういう事が実際の撮影の場では慣例として日々ある事です。この辺の矛盾をもう少し整理して、バブリックにさせていただくことですね。

前澤 オープンなルールはないですね、成田 ないですね。

前澤 その時その時で知恵を持って。プロデューサーが強い人っていうのは、ネットワークを持っていて、俺はここで出来るっていう人が、昔はプロデューサーとして素晴らしい人だった。

成田 そうそう。昔、フジテレビさんには、すごくお世話になりましたけど、やっぱり刑務所には強い誰々とかね。そういう方がまず間違いない訳ですよ。ざっとですが、まとまり無くてすいません。

前澤 実際にはですね、お手元の資料の中に、今まで話題となっている、所謂困難と言われているものを列挙しています。これは、FC作る時から、そういった規制があるんじゃないか、どんな規制があるのか何回もやってきました。今、私共協議会の中に、規制緩和委員会というのが設けられています。其処の中で、実際どんな規制があってどういう風に成っていけばいいのかという討議をしています。それをベースにして、羅列したんですが、だいたい網羅されているんですね。他のものも特殊なものいくつかありますけれども、基本的にはここに書いてある通り、道路とか繁華街とか港湾とか交通だとか、という所が難しいと。これはですね、「規制なのかどうか」という話が実はあるんですよ。

皆さん、一寸手を挙げて欲しいですけども、こういう物は規制だと思う方は手を挙げて下さい。撮影の規制である。あ、思っていないですか。

規制か規制でないかというのを何が判断するかっていうのは、誰かに後で話して貰いますけども。こういった規制があって、規制じゃなくて制約があって、動いてますけれども、実際には先ほどの第1部でもありましたが、東京都と他の地域とでは違います。今お二人が話された様に、東京では無理なことがままある。例えば、公園の中に三脚立ててるけど、本当は違法なんですよ。同様に夜間でも撮影することもね。失礼、これは違法とは言わないな。裁量としては「禁止されている」という事ですね。

田中さんは神戸でやられていて、FCが介在した際に相当改善されたと聞いておりますが。実際どうですか。田中まこ 改善されたという言葉は一寸違うと思いますけれども。先ほどから神戸の例が出る度に、強面のお兄さん達の話が出てきますが、FCを作ってから一切、其方の方達と接触なしで撮影しておりますので、その辺は皆さん誤解がないようお願いしたいと思います。

私が何時も言っているのは、盛岡でも似たような規制緩和に関するシンポジウムがありましたけれども、要は法律とか条令で「撮影をしてはいけません」という風に書かれているような規制は存在しない事なんですよ。ただ、さきほどの発言にあった、道路工事と同じ様に道路を使用する、占有するという事に対する許認可はありますけれども、それは「撮影だから駄目ですよ」という言い方は、警察も出来ませんし、そういう規制はありませんよという事です。

で、神戸でも実は日本では今まで出来なかった地下鉄の線路内の撮影ですとか、これは市の交通局がやっている公共の地下鉄ですね。それを実際、営業時間の後に使って撮影したんですが、車両も動かしました。という事は、運転手さんが2人必要ですと、前と後ろに。何テイクもするんです電車。当然、駅を管理している方もそこにいなければならない。そして、FCの私達もそこにいなければならない。ほとんどが公共の立場の人間ですが、良い作品を撮る為という事で神戸の場合は、

実際に地下鉄の方達も出てきて下さいましたし、撮影の方も協力して下さい、わざわざローテーションを組み替えてまで撮影の為に、運転手さんが出て下さいました。確かに前例はありませんでしたが、やっちはならないという規制がある訳はなく、どうすれば一番迷惑をみんなに掛けなくて出来るか。それは、運転手さんにとっても一番負担にならないようにとか、どうすれば役者さんやスタッフが安全か。線路に降りる訳ですからね。そういった事を検討しましょうという事で、やる事を前提にディスカッションを始めたんですね。

そうしたら、ひとつずつそうやってクリアになっていって出来たと。それは、撮って良い、撮っちゃ駄目という事ではなくて、撮りたいという気持ちに申請してる側も受ける側もまずなって、どうにか実現したい、ではどっちがどれ位それぞれ歩み寄ったら、それは実現するんだらうかという様なディスカッションにしていけば決して全てが不可能では無いという事は、少なくとも神戸においては解りましたのでそれで次は公道の封鎖もやってみました。別に警察からは「何考えている」という事は言われません。その公道で火薬しかけて、爆破までしましたが、でも消防署もちゃんと待機してくれて、「良かったね、誰も何もケガなくて、トラブルも無くて」という事で。一切トラブルなしだったんですね。

何故それが出来たのかという、それは多分神戸では設立前2年間に、そういった警察、消防含めた関係部署のコンセンサスを先にとっておきました。こういう事業やりたいという事で。始めてから、「こういうのやりたいんです」と言っても「何言ってるんだ」という事になります。2年も掛けて「やりますよ、やりますよ、やりますよ」と言っていましたので。そういった下準備が良かったのかと思いますが、それ以上にやっぱり実績だと思います。最初は歩道から始めました。歩道をほんの20m。一切危険な事はありません。それで、何もトラブルがないですよ。次、その歩道をもう一寸長くして、車道片側、少しずつ、少しずつ、

毎回、毎回丁寧にやっていって、実績を上げていって、信用を勝ち取らなければ、いきなりそれ爆破は、無理だと思いますよ。それは、自分のお子さんいる方、例えば中学生になったから夜11時、12時まで友達と渋谷で遊んでくるって言われて、いいよとは普通、親は言いませんよね。やっぱり、そこは、8時、9時って。

前澤 だんだんそうになっていく訳ね。
田中 というのと同じ様に、別に親子の関係じゃありませんが、どちらも歩み寄る姿勢があって、一つずつ実現しているという意味では、神戸ではかなりロケーションの環境が変わって来ているとも言えます。

前澤 さてですね。今回のセッションというのは、実は坪田さんが企画者です。先週まで文化庁におられました。FCを支援するという事と、いわゆる官民と言うと嫌な言い方ですね。それぞれの省庁の方と、所謂映像製作者関係の方が一緒に舞台上、オープンの形で話をするのは、多分日本で初めてです。特に撮影環境をテーマにした事というのは初めてですね。

参加者の中には今日この場で、警察庁の人が来て、「おまえ、何やってるんだよ」とか言って、ケンケンガクガクなるんじゃないかという風に期待している人がいるかも知れませんが、今日はそうなりません。残念ながら。

実は、坪田さんが色んな所を回っていただきまして、結局、警察庁が参加しなくなりましたが、警察庁の話は全部坪田さんが聞いていらっしゃいますし、このパネラーの紹介のところを見ると、警察庁に出向していらした。ですから、半分警察庁の人です。

今、色んな警察が一番、例えば協力的でないという場合には、人を出さない。立ち会わない。許可を或る条件で出します。だけど許可を守ってなければ、止めさせる事が出来る。クレームがくると、止めさせちゃう。結構それは、あるんですよ。道路占有の許可とか使用許可をした時に、三脚立てちゃいけないという事が一つ書いてあると、三脚立てただけで、それで他からクレームが来た時には、禁止出来るんですね。そういう風な事からすると、

いったい警察は、撮影に対してどう考えているのかという事とかを坪田さんが実際取材されたと思うんですが、一寸お話し下さい。警察の立場を。

坪田知広 と言うことで色々立場を持っていて、自分で人格が分かんなくなってきましたけれども。先週まで文化庁におりまして、突如、文部科学省という事で、ただこれは何かポストが変わったというよりも、枠が広がったという位で思っていたいて、映画についてはこれからもやっていきたいと思っています。

私の履歴を見ていただくと、警察庁にも在籍してた事で、警察の人格も時として現れる事があります。飲んだ時に、警察官だったんだと少し襟を正したりすることがたまにある事位ですが。

警察というのは確かに色んなマインドを持ってまして、硬いマインドもあれば、逆にPRしたいというマインドも持っています。わざわざ広報課という警察の本部、警視庁を含めて持っていて、プラスバンドだけやっている警察官がいたりというのは、正にその柔軟部分なんです。多分、プラスバンドを貸してくれと言ったら、警察も喜んでプラスバンドを貸してくれたりしてくれるというマインドも持っています。地域によっては、劇用車って事で、わざわざ使わせる為に警察本部が管理してくれている所もあったりという事で、色々なそういうマインドを持っているので、かなり警視庁含めて都道府県警によって、差が有るのではないかと感じてます。

それと都会と地域との違いというのが大きくて、都会の方が意味クレームが多い可能性は高い。もちろん、誰も知らない農道とかそういう地域の道路よりも、渋谷の道路の方が、当然クレームが様々寄せられるという事でバランス感覚をとるという事と、人間ですから人によって若干対応が違う。

また窓口とトップの問題というのもあると思います。当然、法律は全ての署長さんにも県警本部長さんにも、そして窓口の警察官にもかかっているはずなんですけれども、その辺の解釈の力っていうか、力量っていうのが、上に行くほどそれは柔軟に、ある意味色

んなバランス感覚で使う精神が或る訳ですけれども。窓口の職員は、だいたい新人だったり、とても硬くて他の仕事には使えないという人が窓口だったりしてるんですけど。ものを断る能力は高いみたいなんです。守るディフェンス能力は凄いが結構、窓口にいたりすると、法律を厳格に一字一句解釈しようとする。だから、そこでどうなのかって言うと、生きてる組織なんで、署長さんが変わると急に柔軟になったりというのはよくある話です。

で、愛知も見てきましたし、今日は愛知の或る市の市長さんもこられてますので、言いにくいのか、言いやすいのか分かりませんが。犬山市に、犬山市警察署というのが。これで、犬山市のFCの担当の方が交通課に行った場合、交通課の窓口がたまたまい人だったら上手く通ると言う事がある。だけど、そこで埒が明かかないと、じゃやめようかと、協力できないなという話になりかねない。しかし、これは犬山市全体で応援したい話であると、市長自ら「この撮影は絶対犬山で撮って貰いたい」と言っている。市長さんが犬山の署長に「よろしくね」という話をする、何だ、市で応援している話だったら、それは地域住民が応援している話じゃないか。それだったら、クレームがきても市も応援しているし、一緒にやっていきましょう。」という事が言えそうじゃないかと。

警察で観察、取材をしてきたつもりです。警察の方も、個別、具体的に遣らないと、ほんと千差万別なんです。一律に絶対許可しますとかは、言えないんだという事を私は警察署に取材しました。本当は、担当者を登場させたかったんですけども、粘った挙げ句に拒否されました。そういうマインドなんで、警察も警察庁の一担当というか交通規制課という所が、じゃ全国一律にこうしなさいって言うには事情もありますし、逆に良い意味での裁量、実はこうしてあげたいという精神を伸ばす為は無理に基準をひかないというマインドも持っているようなので。そこは善意に解釈してやっていきたいというのが警察の立場のご紹介です。

前澤 警察の他にも幾つかまわられた

のですか。

坪田 まわりました。環境庁に行きました。

前澤 国立公園とかの所謂、禁止区域での撮影が厳密に規制されている。国立公園の中に建物を作るというのは絶対いけない、という風な事ですね。

坪田 そう、硬そうだと思ってました。境補佐がよく言われるんですが、「信じている神が違う」と。人類が減っても、清らかな緑地とか、山河が残れば良いと思っているのが環境庁なんだと。そもそも話を通じないよとアドバイス受けていて。「そういう所か、やだな」と思いながら行ったら、意外と向こうも映画についてはすごく乗り気で。

私の言い方としては、パークレインジャーという、環境を守ろうと現場でがんばっている人がいるんですが、その人をテーマにした映画とかを取っ掛かりにして、協力しませんかとかですね。例えば、映像の中でそれを意識付ける様な事が、一寸入っていれば積極的に貸してくれるかも。

前澤 なるほど。警察署も「警察の広報」だったら、道路封鎖するんですよ。だから、自分達のプラスになるんだしたらやるんだけど、それ以外はやらないって言う事からすると、環境庁も他の人にやらせる可能性あるんですかね。

坪田 あり得ると思いますね。

前澤 神が違ってても。

坪田 はい、神が違ってても。だから、あなたとは神が一緒です同じ物です、ってなりきった振りをしないとイケない。ですから、「おっしゃるとおり、自然公園で大事ですよ。こういう物を我が国の傑出した自然の風景を守って行く事が人類の使命ですね。ところで、こういうものを意識づけるには、映像の力は凄いですよ。一緒にやりませんか？みたいな事でやってかないと。当然、撮らせるとか、持っていきかたが強すぎると多分ああいう事を信じている方々にとっては、いきなり反発される世界になると思います。自然公園とさっき言った日比谷公園みたいな都市公園とか公園によっても、色々規制は違うらしいんですが、自然公園の世界だとそういう攻め方がいいんじゃないかと。同じ神を信じてますので、

撮りましょうという世界があるかなと、私は感じましたけれども。

悪い方々ではなかったというのを紹介しておきます。

前澤 それ以外に行かれたんですか。厚生労働省とか、硬そうなんだけど。

坪田 厚生労働省は、組織が細々し過ぎていて、セクションがあまりにも分かかれすぎているので、労力の関係があってやめました。

前澤 警察と環境庁の二つですね。

坪田 そうです。

前澤 分かりました。境さんは、何か引用されて困っている顔だったけど。

境真良 神が違ってても異端は何処でもありますからね。神が違ってても話が合う人って多分何処に行ってもいるんですけど。僕達はお金に仕える役所なものですから、お金さえ儲かれば何でも良いって方で、禁止されてる事以外は、お金が儲かれば何でも良いことだと思っている役所なんで、是非映画にももっと儲かって貰いたいと思って期待してここにいます。一番難しい事は、余り裁量が各管理者に与えられていると管理者が何をもってうんと言のかなという事が、あんまり響いてしまうのは、すごく僕は難しいと思っています。

例えばですね、今、何かパークレインジャーだったら良いって話してますが、じゃ主人公が国立公園で何かけんかをしてですね、実はその話が渋谷の事件かなんかが元になっていて、人を追って行って駐屯地まで行ってしまったと。この主人公は、パークレインジャーでかつガーディアン・エンジェルズでかつ自衛官にしなきゃいけないかと。しかも彼は勝たなくちゃいけないかっていうと、内容的には凄く縛られてしまう訳ですね。

FCの話が一番最初に出た時に、僕はすごく心強いなと思ったのは、映画の内容によって、協力する協力しないって事を考えるのではなくって、映画そのものを撮る事自体が良い事だと思って、協力しようという風に冒頭から話をしてくれたのが、僕としては我が意を得たりと言うか、いいなと思っていて。というのは良い商品、商品って言うと怒られちゃうかも知れませ

んが、やっぱり良い商品というのは、必ず縛りが少なければ少ないほど、クリエイティブの重要度は上がりますので、あまりこれしちやいけない、あれしちやいけないと沢山増えますと、かいくぐり事で頭いっぱいになり、最後に「すいません」とか言ってシナリオをガラッと変えて、目も当てられなくなっちゃったら困るので。僕としては立場的にはですね、中身がどうこうだからという事ではなくて、一般的に認められる様には、どうすれば良いかという事を考えるんですね。

規制緩和の話なんですけど、実は私達も規制緩和という事は一生懸命捉えていて、規制緩和をしようと思ったんですが、実は規制があんまり無いんですよ。規制が無いというのは、田中さんが先ほどおっしゃってましたが、何とかしちやいけないっていう風に書いていない。何とかするには許可を得よと法文に書いて無い場合があって、これ非常に難しいですね。

我々は経済産業省の中において、規制緩和ということで他省庁の法律を沢山勉強したんです。実はですね、経済産業省と他の役所の間にですね、自分がいい子に成るのではないですが、法文解釈の違い論という内々のノウハウ集があるんです。要は経済産業省は「ペケペケをしてはいけない、と書いてある事はしていいんだ」って僕は思うんですね。一方で「ペケペケをしてはいけない、と書いてないことはしちやいけないんだ」と判断する役所があります。

そうすると、「こうこうこうしたら、撮影をさせなくてはいけない」っていうルールをどう作るかっていうのがポイントになってきますね。これはですね、テクニックとして色々考えられるのですが。

実は地方自治体の間にも同様な競争があるんですね。そして、これはお願いなんですけど、映画を誘致したいって所はですね、このルールを条例レベルで作っていただいて、「これだけ分かりやすい見れば明確なので、うちはしやすいぞ」っていう風に謳ってくれるといいですね。例えば、東京の町中を撮影したい人が、長野県の山奥に行くとは思いますが、山なら何処でも

良いという人は、群馬に行っちゃう人が、ひよっとすると福島まで行ってしまいかも知れないという事はあるんで、そういう意味ではテクニックかなと思いますね。

前澤 条例は作って見たと。そうすると、その条例と法律の整合性みたいなものがある。中央官庁からそれはまかりならんという風になれば、逆に言うとそこで問題が顕在化しますよね。

境 冒頭に申し上げました様に、しちやいけないという法律はないんです。ですから、本来であれば、そこはバッティングしないですね。

前澤 しないでですね。

境 さっき坪田補佐が言っていた事、それから成田監督が言った事とかを実は理解して欲しいのは、すでに理解されているとは思いますが、役人も人間です。実は、一生自分の町を離れなくていいぞとか、一生首切られないぞと思って役人になるという人が結構いるんで、一番臆病なタイプの人間かも知れません。ですから、クレームがついたり、何かバツがつくのを凄く嫌うという体質があります。そういう時に取りあえず、「駄目です」と言っておけば問題は起きないですね。

前澤 そうですね。

境 これは結構よくある話で、自分の役所の中でも結構あります。だからこそ、こういう風に書かなくちゃいけない。もちろんその背景には、そういう条例を作るという時になると、どっかの議員さんが文句を言うかもしれないから、そこはやっぱり地元民の理解が先行するだろうし、組長さん達のやる気というものもあると思うんです。ルールが無いとネグレクトするという、役人の本質みたいなものがありますから。我々も本音を言っているんで、建前ではなく、本音で明日ロケが出来るように、明後日ロケが出来るように手段を考えなくちゃいけないので、そういう方法も試してみたらどうかと思います。

前澤 お分かりの様に、今日は敵ばかりじゃなく、味方も来ています。その1人が国土交通省の片山さんです。国土交通省は本当に巨大な官庁です。昔の建設省と運輸省が一緒になったのは、

皆さんご存じの通り。ここにある討議資料のかなりの部分について、実は国土交通省が所轄官庁なんです。ただ、それはそれぞれの担当がみんなやっている事で、片山さんに全部質問ぶつけても、それは回答不能なんです。ただ、片山さんは観光部地域振興課という所におられて、FCを支援する立場にいらっしゃる。ですから、国土交通省の中におられて、実際には矛盾も幾つかあるかも知れませんが。特に今のお二人は不思議な官僚なんで、その間に挟まって一寸困っているのではないかと思います。ご意見を頂けますか。

片山敏宏 国土交通省観光部の片山と申します。こういう場合はなかなか馴染みがなかったものから、非常に刺激を受けて、お役人サイドにいますと余り思えない様な感じで戸惑っている部分もあったんです。先ほどもありましたが、国土交通省と言いますと、道路、道路規制自体は、河川敷の撮影とか色々あります。ただ旧運輸省、建設省、北海道開発庁、国土庁と物凄く大きな役所四つが合体したものですから、我々も2年たってますけども、正直言ってほとんどの職員の所属と何やっているのかあんまり良く分かっていない点があります。

うちの観光部という所は、むしろ良い映画を良いロケーションで撮って貰って、そこに観光客が来ていただいて、あわよくば海外からも来て貰うと嬉しいな、という感じで。此方は何も規制が無いから、むしろ他の所に「お願いします、お願いします」って言ってきた立場ですから、皆さんのご批判もよいしよしながら、頑張っているかなと思ったりしています。

空港などの関係で、滑走路での撮影を今まで余りやっていなかったようなので、事例を省内で取材してきましたのでお話しします。

愛媛FCさんが動いて、愛媛県の松山空港の滑走路の中で撮影をしました。飛行機の着陸シーンとか迫力あるのは、近くへ行けば行くほど撮れますから。でも滑走路の中に入るとするのは、航空現場の人にとっては、物凄く不安があるようです。飛行機にとっても滑走路に撮影者が近づくと、不安

があるみたいです。これは規制云々と言うよりも、安全面です。撮影にはライトとかフラッシュが結構あるので、その光で、進入体制の飛行機でパイロットが一瞬見えなくなって墜落したらどうしようとか。飛行機に特有な、どこまで大丈夫かという専門的なところもあると思います。それを愛媛FCの努力と制作関係者との綿密な打ち合わせ、そして空港関係者の人達がとにかくやるんだという方向で動いて実現したんだと思うんですね。

そういう姿勢というのが大事です。悲しいかな、お役所というところは窓口は金太郎飴ですからね、基本的に同じ処理をやらなきゃいけないとは思っています。やはりその時にはメンバーに個人的な負担がいかってしまうというのがどうしても残っている。そこに頼っているのを何とかしなきゃならないというのを、此処の議論でしていかなきゃならないと感じております。

空港滑走路での、かなり良い撮影ができた。これが先進事例として広まっていけば、新しい事例でより許可が下りやすいというのがありますから、観光の立場からもこういう事をお願いしていきたいと思っている次第です。前澤 有り難うございます。先ほどからお話があるように、それぞれが均一な規制がある訳ではなくて、それぞれの裁量でやっている。ロケーションを考える中に、撮影出来ない若しくは撮影を断られた理由で言うのは条件があったり、今までやってないからとか、或いは勤務の問題、つまりそれに立ち会えないからとか。でも、それはエネルギーがあれば人がアテンド出来るんですね。

其処までやろうとしないから、出来ないみたいな事が結構あるんだろうと思う。特に国土交通省でいうと、安全の問題。つまり航空、交通なんかは安全確保が基本的に重要である。ただ、それが過剰なんではないかという感じがあって、ちゃんと条件満たせば出来るんじゃない、て言ってもやっぱり駄目だという事が決まりとしてあるというのは感じますね。そこをどういう風に突破していくかという、やっぱり少しずつやるしかないのかな、実績を

作るしかないのかなと思っているんですけども。成田さん、それ上手に行くまでに人生終わっちゃうかしら。

成田 間違いなく終わると思います。お三方に非常に上手い事、煙に巻かれたように感じますが。なるほど物は言い様やなあという感じがありまして。どういう神を信じても構わないんですけど、取りあえず撮影させてくれや、というのが本音のところでありまして。結局、上に弱い体質なんですね、この国は。撮影の人間もそれからロケーション見物される一般の方も含めて。さっき道路の事で、警察関係の方から何もクレームがないという様な事言われましたが、確かにそうだと思うんです。「撮影するな」とはどこにも書いていない。条例の中では確かにそうなんです。これ申請出すのは所轄の関係ですよ。そうすると、度が過ぎますと本庁の方が、これはお膝元で一寸野放しにしているのかという事で、間違いなく報復するんですよ。

近い例だと、非常に大変な作品ではあったんですが、皆さん聞いた事ありますか。「首都高トライアル」という映画があったんですが、首都高速をサーキット化して走るという主人公の話です。ビデオ映画ですが、通算6、7本作られたと思います。全部撮影が終わったにも関わらず、警視庁の何々班が非常に科学的に分析した結果、これは明らかに違法な走行であると認められたので、事情聴取ないし関係の数名を逮捕に踏み切るという。これ間違いなく報復なんです。東京管内お膝元で、こんな違法行為がまかり通っている、そんな事許してなるものか。

要するに発想は、その筋の人らと同じなんですね。うちのシマで、何やっとなねん。それと同じ事ですね。田中さんもおっしゃってましたが、最近その筋の方も、映画屋は金持っていないから、相手にしなくなったんですね。

さっき僕も幾つか言いました、道路の問題、それに係わる時間的な事、もちろんそれは窓口の関係によるんです。

現実に京都の太秦署の人だったかな、使用許可は1時間で出ます。1カ所だけですが。そうするとですね、だいたい警察とかは縦割り行政になって

いますから、上のものも、順繰り順繰りってハンコが必要な訳ですよ。最終的に、署長のハンコがいくつです。でも、そんなものまでいちいち署長は目を通してませんわ。ほとんど最初から官判押した書類が出来上がっていて、どこかで用意してあるんですよ。そういった工夫というか煩わしさをいとわなければ1時間で許可が出るんじゃないか。それを何で3日もかかるのか。この辺が、各警察署の裁量によるんでしょうけど、どうも僕は釈然としない。最近は無いですけど、無いと信じていますが、ビール券持っていくと割と早く出るとか。これは、要求はしませんけれど、「どうぞこれ皆さんで飲んで下さい」ってやったら、貰うのは人の常ですね。そういうレベルで、ものごとが決定されるっていう事が、やっぱり不公平であり、撮影に対しての不満であったりする訳です。

公園の事、確かに管理者の問題、地域住民からうるさいとか、灯りをいつまで点けているんだと。撮影ってそんなもんですよ。FCやってらっしゃる皆さん、ずっと撮影に係わってくると良く分かると思うんですけど、撮影ってまず予定通り行きません。その事に対しての、先ほど山田さんがおっしゃっていましたが、天気とか色んなファクターが関わり合って、それで最終的に映画が出来上がる。僕は非常に個人的に勝手に思っているんですが、FCの皆さんが撮影に関わって映画のメカニズムの中で一番感じる事は、映画が出来上がった後の達成感だと思うんですよ。

自分達が参加して共同でひとつの大きなものを作り上げたという達成感こそ、映画という作られる芸術です。関わった人間の人生に限りなくちゃんと物を残すという様な事だと思うんですね。

前澤 成田さんのお話しは、何でもやらせろっていう話なんですかね。

成田 いやいや。

前澤 つまりですね。今の話の中で、感じたのは、撮影って結構迷惑事ですよ。ライトたいたり、夜中にやったり、音も出るし。

成田 僕みたいに声も大きいしね。

前澤 色々ありますよね。それで、無

理にやっちゃうと2度と其処の人達は使わせてくれなくなるかもしれない。或るルールの中でやってかないと、つまり色んな人を敵に回していく事になる可能性が高いんじゃないかと。

だから制作者側のモラルをちゃんと守っていかないと、逆に自分達で自分の首を絞めている事になるんじゃないか、という心配は無いですか。

成田 全くおっしゃる通りです。非常に言ってる事が矛盾しているんですが、要はバランスなんですよ。

ひと頃、都内のロケーションで、一番見つかりにくかったのが病院。それから、ナイターで外が使えるマンションでした。これらの寿命はだいたい1年。撮影隊が集中し過ぎるから。

前澤 そこに集中する訳ですね。

成田 それだけやっぱり情報が乏しいし、1度使った事がある撮影の手順が分かっている所に行きやすくなっちゃうんです。さっきの3つがガチンコしたとかどうとかではないんですが、それは大きな制作会社のネットワークみたいのが出来ればベストなんです。それには、撮影隊の良識や常識部分に任せるしか方法がないと思うんです。撮影行為というのは社会的に迷惑行為であることは確かにそうなんです。その上で、やっぱり映画というのは、見る側も作る側も共通の財産なんだというところまでレベルが上がってくれば変わるかな。

ただし、まだまだ道は遠いです。おそらく僕が死んでからの話だと思いますがね。しかしターゲットというか目標は、ちゃんと高く置いておいた方がよいかなど。で、現実の問題という事です。僕もやっぱり使用許可、道路とか、公園とか、釈然としない理由の中で、撮影ができないという事に関しては、人的な問題でしたらもう少し早めに来るんじゃないかと。

前澤 亀山さんに伺います。フジテレビジョンというブランドを背負っているの、グリラで何かトラブルが起ったら本当にスキャンダルになりますよね。やばいですよね。だから、キチッとやっているという姿勢を持ってらっしゃると思うんですけども。今の成田さんの意気込みというのと、フジテ

レビが映画を作る時にちゃんと段取りを踏んでいって、それが段々撮影環境を良くしていく事に結びついていくんじゃないでしょうか。

亀山 僕ら結構ロケ場所潰しましたから。フジテレビはバラエティやその他の番組もあります。実は、今、横浜のある公園にフジテレビは入れません。フジテレビだけ入れません。

前澤 そうですか。

亀山 出入り禁止です。これはあるバラエティがやった事、それが積み重なってやった事です。他局は入れますが、フジテレビは未だにドラマも何も入れないという状態です。僕や編成局の人間が一生懸命に日参して公園の人間と話していますが「1年間は何れにしても決めた事なんで」と、入れて貰えない。しょうがないねと言う事なんですけど、結局僕らがルールを守ってなかった訳ですから。それから、その後の対応もなってない。これは、しょうがない訳ですよ。事故が起こったという事ではないんですけど。

しかし横浜では、フジテレビ以外は入れてくれるのでまだ良いんですけども。例えば、ある喫茶店を潰すというのは、日本テレビのお陰でフジが入れなくなるとか、TBSが何かしたからフジが入れなくなるとかです。次の番組で使おうと思ったら、「こないだTBSにやられたのでもう貸さない」なんて言われたりする訳ですね。

さっき成田さんがおっしゃった様に、せつかく貸してくれる所は、みんなの共有財産なんだけど、病院を潰していくというのは、成田さんの組はワンシーンだったのが、僕の組は5シーンを撮った。しかも無理したスケジュールでやって、夜中に急患入った時にトラブルみたいなのから、その病院潰しちゃう訳です。次に成田さん達が行こうと思ったら、もう貸さない。誰かに貸して、誰かに貸さないとなると病院側が不公平だと自分で思っちゃうから、皆全部やめちゃいます。という発想になってくる訳ですね。

それを調整してくれるのが、FCの皆さんだと思ってます。そんな場面で、ワンクッション入っていただきたい。トラブルは当然起こりますよ。起

こるんだけど、それを全体として捉える様にして貰えばいいかな。当然FCから僕らにクレームを言われるんだと思います。潤滑にやると同時に、何かしら僕らに対してさっき言った規制ではなくて、或る指導というのを頂く。それは行政とお話しをした上で僕らに指導があっても良いと思うんですけど。

結局、一番つまらないのは、やっとな開いた心を何かの形で潰していくってこと。1個潰れたら、全員が潰れるのが、僕らの業界なんで。それは、是非改善していきたいので、FCの皆さんにはよろしくお願ひしたい。

田中 さらに加えちゃっていいですか。そうやって潰されますよね。それでも制作者の方は、例えばフジテレビだったら兵庫県出入り禁止になったら、じゃ大阪府に行こうとか、横浜出入り禁止になったら、何処か行こうという風に相手を変えられます。でも出入り禁止にした方、潰された方の地元の人間はそこからのチョイスはもう無いことです。自分の所でほんとは撮って貰いたいと皆思っているにも係わらず、そういうたった1人、或いは1グループの制作者のせいで、自分達の所のロケ財産がどんどん減っているんですね。

確かに、問題が一番多いのがバラエティです。圧倒的に件数が多いんですが、映画でもいくらでも例としてはあります。さっきの保険の話もあると思いますが、お金で元通りにすれば良いってものだけではないですし、人がケガをしたり、大事な文化財産だったりしたら弁償できない物もあります。やっぱり制作者の人達で、まだテレビ局の人が来るのは良いんですが、下請けの下請けのそのまた下請けの位の人達が来た場合には、例えばフジテレビの番組だからちゃんとしなきゃみたいな意識は、無くなっていますね。とにかく凄く安い値段になっている訳ですね、下請けの彼らは。

FCとしてもなるべくお手伝いしたいと思うんですけども、限られた時間で無理矢理撮ろうとすると、すごい無茶な事を言われる訳ですね。そうすると我々としては、さっきおっしゃったように、指導したくなりますので、「それでは無理ですよ。じゃせめて、

2日に分けて、こうしませんか」と提案しますよね。すると「分かりました。もう良いです」と帰られ、蓋を開けてみると、実は黙って翌日、自分達でやっていた。そういうトラブルはしょっちゅうありますからね。

FCの人が、役所は頑硬いと言われながら、みんな頑張っ、映画見たり、テレビ見て勉強して、仲良くしようと努力して、よしやっとこの学校OK取れた。今度からここで撮影出来ると思ったら、一作者のせいで潰されて、「さようなら」という事も現にあります。私達も努力をしなければいけないのは良く分かるし、やってはいますが、地元の間人は一生その人達と付き合いがかなきゃならない訳ですから、製作者の人は旅の恥はかきすてかも知れませんが、私達は旅している訳ではありませんので。

前澤 亀山さんを説教しているようにちょっと聞こえるんですけど。

田中 いえいえ。でも、その辺の事を成田さんもそうですが、制作者の方達がもう一寸分かっていただいて、それで役所は変わるべきだと言っていたかと嬉しいです。

亀山 理解はしてるんですけど、今の話聞いていると、田中さんが怒っているところが僕らに入ってくるまでに、何処が、誰が何を搾取しているのかを一寸これからしゃべらないといけないですね。つまり、お金のせいでそうなるのかと。僕らがバジェットを叩いているんだとすると、僕が叩いているんですよ。きっと。

僕のところに「2日必要なんだと言われた」と話があがって来たら、僕は直接田中さんに電話して、「何ですか」と理由を再度聞きますよね。そうすると、制作の一番下の人間が言っていることが正しいのか間違っているのかが分かるし、俺はそこまで無理は命じてない事が分かるはずなんですけど。

しかし「基本的にそれ潰れました」といって、現場が勝手にやったなんてことを僕は知らなかったりする。

要は、各チームが公園に許可を取りに行って、初めてフジテレビは入れないって言われて、「え、何かあったの」という状態なんです。

僕らが改めて調べると、「何かの番組らしいですよ」という事が分かってくる。言い方が悪いですけど、らしいってどういう事って聞くと、「言いたくないけど某制作会社の某制作が、どうやら、こうこう、こういう事をしたいのよ」と言う話が出てくる。だけど、僕らは責任のとり様がないんですよ。その後も脈々と番組はやっているから。制作の僕らが何をすればいいのかわ。

FCの皆さんには、台本がお渡しされているんだとすれば、制作担当やアシスタントプロデューサーでも良いですよ。僕が直接交渉に行く事はまず無いと思うので。実情を話していただいた時に、問題点は明らかになるんだと思うんですね。

前澤 昔からFCでは、制作者のモラルの話がよく出ていたんですよ。「彼らのモラルが悪いじゃないか。だから、規制緩和の前にモラルじゃないか」みたいな話もあるんです。ただモラルって、「お前モラルが悪いよ」と言われて変わる人間はいないんですよ。そういう事になると、職業としてこれやらない限りモラルは改善しないと思うんですね。

現在、各地に計59あるFCはネットワーク組んでいます。FCの所に色々な制作会社が行きますね、その時に態度が悪かったか、約束を守らなかったかどうかという事は、結構データ残るんですよ。今までは知らない所でやっているの、誰も知らないんですよ。

ところが、某プロダクションが何処で何をやったかを「以前に何処でやりましたか」「神戸でやりました」と聞けば、神戸に電話すればいいんですよ。神戸へ電話すると、「いやあ、彼処は止めた方が良いでしょう」とか。もちろん、FCとしては基本的に支援をやりませんが、慎重に対応が出来る。「保険はちゃんと掛かっていますか。スケジュールは十分とっていますか。ちゃんと台本は有りますか」という事をちゃんとチェックすればトラブルはないですよ。サラ金ネットワークの様な事をやっているんですよ、FCネットワークは、ブラックリストまではいってませんが、

それぞれの情報が共有されないと、なかなかモラルは上がってこないと思うんですよ。何か言いたいことありますか。
成田 制作会社というだけではないんですが、やはり問題の多い方というのは、自分がどう見られているかわからない。もしかして問題の多い監督なのかも知れないし、確かに問題の多いプロデューサーとか現実にはいますよ。ですからさっき自分が言ったのは、良識に任すしかないという事ですね。それぞれが付き合い方とか、判断していただくしかない訳ですよ。

さっき、田中さんが制作部や監督を責められたので、若干弁明しておきますと、特別、旅の恥をかきすて的な意識で、確信犯でやってる組はまずどこもないですね。映像を作る過程というのは、僕は本当に性善説だと思えます。悪くしようと思って関わっている奴なんて誰もいないんです。スタッフみんなは最終的に、全てを面白くしよう、良い物を作ろう、というところで成り立ってる訳です。そのプロセスで時間的制約であるとか、予算の制約であるとか、様々なファクターが絡み合っ、時々勇み足というか、そういう事がトラブルの原因だと思うんですね。他に事故につながるとかね。

ですから、まず直接面談して対応する事が一番いいんじゃないですか。事前に、最中もそうだけど、先日も事故が起きましたけれど、事故起きてからの対応の仕方ですよ。どういう具合に対応するのか。それはロケーションの現場であってもそうだと思うんです。器物を壊しちゃった、ガラス割っちゃった、ドア壊しちゃった。その為には、どういう具合に誠意を持って対応するかという話だと思うんです。

田中 確信犯は無いとおっしゃいましたけれども、私達分かるのは終わってからの対応を見てからなんです。

前澤 それって、話が一寸ずれているので元に戻しましょう。はい、境さん。
境 今ね、僕ははずれてないと思ってまして。行政とかそういうシステムを間に挟んで、両者の「ガチンコ」の所にあると思うんですよ。今、性善説とおっしゃいましたが、実は問題は結果責任でして、人殺したら別に過失致

死があるみたいなもの。殺してしまった以上、罰はつくんですよ。問題はそこでどういう風な手段をとったのか。様々な得も言われぬノウハウの部分に確かに集中すると思うんですね。

僕が作る側に一つお聞きしたいのは、今ここでFCという形で、撮られる側の方が、ある種のタグを組んだ訳ですよ。ブラックリストまで作ろうとしている。でも、ブラックリストが作られるのは時間の問題だし、作る事が出来る状態になってきた訳です。

逆に今度、制作会社の中でミシュラン制度みたいに格付けるのもありかと。ここは大丈夫かなと。何かもしどこかがまずいことしたなら、お前1個落とすぞ、言うような制作側のメカニズムが起き得ないですかね。

亀山 もう、起きてますね。実はプロダクションは淘汰されると思います。田中さんたちを苦しめているAプロダクションというのは、そういう評判はたつ、それで申し訳ないけど評判がネットワークで回る。僕らは知らない。知らないけど、やばいぞとなる。なって、仕事が滞る。同じ話を別のBプロダクションに振ったら、一日でOK取って、撮影準備まで仕切ってきた。となると、A、Bで言うと当然Bを使う、対価が安いからではなくて、やっぱり仕事が信用できるからってなると、Aプロダクションは無くなってくる。

テレビ局が制作プロダクションの団体のATPの会合に出ると、一番問題になるのは、プロダクションの極集中化が始まっているので、僕ら局側が叩かれるんです。しょうがないですよ。信頼が置けるところは、仕事が多くなる。で、新しい所になかなか仕事を渡していかない。特に、ドラマなんかはフジテレビでは、フジテレビ局内と共同テレビというところ以外では、連ドラは撮ってませんから、一枠も制作会社は入って来てない。それって、ゆいしきことだと思うんですよ。つまりお金が流れないですから。制作会社の自然淘汰というのは、死活問題になってくる。だがすでに始まっている。良いことか、悪いことか。ただ、依頼しなくなるころは、制作能力が落ちてるのは間違いないって気がします。

前澤 話が何処に行ったか。急に戻しますよ。

田中 質問があるんです。片山さんかな。アメリカの様な、或いはオーストラリアの様な映画先進国と呼ばれている所でも、どうしても撮れない物っていうのがあります。マンハッタンのど真中でカーチェイスは撮れるのに、橋の撮影っていうのはなかなか海外でも実現していない。それは、迂回路確保できないっていうのが、橋の出来ない一番の理由だと思うんですね。

そこのところまでは分かるんですけども、高速道路を撮りたいというのがたくさん有りまして、今回の「踊る大捜査線」もそうでしたけれども、高速道路も色々有りますね。そんなに交通量が多くないものもあれば、本当に首都低速になっているところも有ります。余り使われてない所に関しては、本当に必要で無ければ、混んでない時間帯とかデーターがありますよね。どの入り口から何曜日の何時に何台入ったというデーターがあつてですね。それをもって話をしてもなかなかうんと今言つて貰えない状況なんです。

例えば、その辺から少し緩和していただくというのは、いったい何方にお話しすればいいの。そしてそれは可能性ありでしょうか。

前澤 石原大臣ですかね。

田中 道路公団新総裁に言いたいですが、タイムリーな話題でごめんなさい。片山 上の方から通すのが一番早いと言いたいんですが、観光部から道路部に言つてもファクターが多くなるだけですけれども。おっしゃる通り、私も首都高速止めてやるというのはなかなか難しいかなと思います。むしろ東北地方で、本当に車の少ない道路は、撮影で使つて貰ったほうがいいんじゃないかと。そういうロケ車でも収益になりますので。やっぱりカテゴリー分けみたいな事をしていかないと駄目かなと。高速道路は原則、駄目ですと書いてあるだけなものですから。議論としては、民営化されればまた出てくるかなと思ったりします。

前澤 民営化の良いタイミングかも知れませんが、時間があと10分位しか有りません。会場の中からお質問のあ

る方がいらっしゃいましたら、マイクを回します。先ほどは、カードに書いて貰いましたが、討論会なので直接、質問していただきたいと思います。質問は、的確に短く質問して下さい。お名前と所属をお話し下さい。

質問 監督新人協会から来ていますが、武蔵野シネ倶楽部で、「映画を見る会」の会長をやっております。元大映京都撮影所の助監督でした。私共、時代劇を撮ってましたので、京都ではお寺は全部撮れました。

質問はですね、今どういう状態で作れるのか、ということです。今、大覚寺しか使えませんよね。それもお金を出して。僕らの頃は、お寺全部が使えていたんですが。時代劇を見ると大覚寺しか出てきませんね。変化が全く無い。京都はどうなのか。文化庁に聞きたい。

前澤 文化庁はその情報を持っておりません。京都はですね、東京でちゃんとしたFCが出来るよりも一番難しい所です。つまり、神社仏閣が基本で、これは行政範囲から離れているので、神社仏閣の方がやろうと思わない限りは、進まないんですね。京都市民のほとんどの方が賛成するという風になっていかないと変わらないです。

質問 そういう事ではなくて、私共の頃は市川昆さんの作品でも、金閣寺が使えましたからね。

前澤 文化財としてのものですね。

坪田 文化庁の立場で発言します。文化庁も文化部は「いけいけ」なのに、他の部は「？」とか、ある雑誌で書かれたんですが。文化財保護というの、文化庁のこの映画の前向きな話をしていながら、少し硬い規制の部分があるところなんです。

もちろん、文化財が価値を落とすような事はあっちゃいけない。未来に残そうという立場でやっているのが文化財保護です。もう一つは、管理者の立場というのがあって、神社仏閣は宗教法人という行政とは違い、遠慮した関係というのが、仕組み上あるわけです。ですから、法律でガチガチに書いてある訳ではないです。当然、文化財を傷つけるなという事で、許可する場合でも許可条件をちゃんとして守って。光

を当てる場合でも、光で塗料がはげるとおそれがある場合は、時間を守ってとか。釘の打ち方は気をつけると色々な問題があったりしますけれど。法律では一切撮影できないとはなっています。

だから、管理者でかつて出来たという時と今と、何か事情変更があったその原因は私は知りませんが、文化庁の方から協力依頼という形で、様々な法律上の事にも気をつけながら、こういう映画の価値に鑑み協力して下さいと、働きかけは出てくる。

その中でかつてどの位の事があって止めてしまったのか分かりませんが、文化庁が応援しているんだから個々具体的によほど変な話でなければ、貸しましょうとか。京都を理解してくれている様な映像関係者には、ちゃんと面接した上で貸しましょうとか。そういう話になってくる事は十分有り得ると思っています。そういう対応が現実的にあるかなと思っていますけど。

文化庁を去ったものが言う、残った人達にプレッシャーを掛けることになってしましますが、個別の事情も聞かせて貰いながら、どうして一寺だけになってしまったのかを考えたいと思っています。その辺を聞かせて下さい。

前澤 具体的な企画をお出しになって、攻めていくしか実際はないので、一般論としてはできないですね。他に質問ございますか。では、大山市の石田市長さん。

質問 特に成田監督とフジテレビの亀山さんにご質問したいのですが、今、お話を聞いてましてね、一寸現実の自治体の感覚と乖離があるなと思ったんです。少なくとも、私共7万3千人の規模の町ですが、映画撮影したいと来られたら全面的に協力しますし、現実にはここ数年映画撮影には協力して、撮影の障害があったという経験はありません。

私共の町ばかりではなくて、全国の自治体は、大都会はどうしても別ですが、10万前後以下の町でしたら、私はとてもみんな喜んで撮影には協力すると思うんです。私は全国の自治体は、お二人の表現を率直に受け取ると、も

う少し文化力あると思うんです。生涯学習というのは、今日本中何処でも盛んですしね。

私の質問は、映画製作は芸術ですから、現実からフィクションの世界をとらえる。芸術の世界は、現実の世界と違いますから。私は、個人的に考えて、日本の伝統的な映画ですね。日本は素晴らしい映画作ってきたし、日本は世界に冠たる文化国であり、芸術国だと私は思っています。そういう日本の伝統的な作品から、一寸はずれる様なアメリカのアクション映画とかですね、今の人は好きですからね。

日本映画もハリウッド映画の流儀が主流を占めつつあるのではないかと危惧を抱くわけですが、どうですかね。成田 演出意図の意中であると解釈しております。

余談ですが、先々週に市長さんの町を訪れました。本当に良い所ですね。都市部で撮影が非常に多い関係上、僕はどうしても都市部における規制に関して非常に熟慮したものを持つてる訳なんです。僕自身、秋田の田舎の出身ですから市長がおっしゃった様な事は、重々分かっております。ただし、ハリウッド的にはCGを含めましてね、個人による表現の嗜好の問題だという具合だと解釈しております。先達の作りました一連の日本の文化的な映画の価値ももちろん認めておりますし、尊敬、尊重している次第でございます。これで、よろしいですか。

前澤 それでは亀山さん最後の締めを一緒にして下さい。

亀山 私も全く同感でございます。ただ、大作というか、大量に番宣してヒットさせる映画もあれば、同じフジテレビの冠は付いてますけれども、実は来年1月に公開する「解夏」という、これは長崎FCにお付き合い願ったと思いますが、さだまさしさんの原作を本当に牧歌的に作って、正に日本映画の伝統を受け継いでいると僕は思っている映画もある。ただ一般に地味ねと言われるような作品かも知れないけど、それもちろんと供給していきたいと思えます。それが両立しているのが映画の素晴らしいところだと思います。

僕はテレビの人間なんで、映画部に

来て何が一番嬉しかったかという、昔自分が通っていた公立の学校の匂いがするんですね。すごくのりの良い奴もいれば、体育ばかりやっている奴が同じクラスにいる。

ところがテレビ局に入ると規制ではなくて、色んな欄というか、何をしちゃいけないとか、不偏不党とかという教育を受けますから、私立の進学校に入ったみたいになるんです。その中で視聴率、つまり偏差値を常に争わなければならない。その時、体育がすごく得意だったくせに、テレビ局に入った瞬間に報道やって政治ネタになっている。体力があるからお前は政治行けるだろうとかの理屈をつけられて、官邸の記者クラブで、ピクニック政治家に密着している人間がいたりする。

これ一寸違うよなと思いつつ、映画の世界にもう1回戻ってみると体育の好きな奴は、相変わらず体力、武闘派でやっているし、成田さんみたいな監督もいれば、山田洋次さんみたいな監督も同じフィールドで、同じ映画館で上映される訳ですね。これは本当に夢があって、映画の方がよっぽどいろんな期待が出来るなど。テレビ局の人間でこんな事言っちゃいけないんですけども、やっぱり色々な映画があるのはいいと思いますので。大好きです日本映画は。

前澤 有り難うございました。坪田さん最後にお話しを。企画者ですから。

坪田 言い出しっぺなだけですから。

成田 その前に、あの常日頃、一般論として僕疑問に思っているんですが、しつこく道路の事をあえて言わせていただきます。

箱根駅伝とかマラソンで白バイの先導までついて、きっちり道路封鎖してるのに、何故に映画やテレビの制作では道路封鎖出来ないのか。これがこの国の現状でございます皆さん。

前澤 じゃその話を受けて。

坪田 大きくは映画の社会的評価も上げようという事で、文化庁長官の元で懇談会をやって、12本の柱の一つでも、映画への見方、見方は行政の見方だけではなくて、国民一人一人の見方。又特に鑑賞者、一寸横にやられていた鑑賞者が映画に戻ってきて、映画とい

うのは作ることから一市民の立場で、応援しようと。そうしてくれる事を祈って、1項目上げた。そういう精神で文化庁、文部科学省共々望んでいるという事をご理解いただきたいし、壊より始めよう的には、文部科学省の旧庁舎利用の件も個々にご相談いただければ、今大丈夫な雰囲気になっています。もうすぐ取り壊すので、その際に使っていただくというのでもいいかな。

前澤 爆破して、いいんですか。

坪田 爆破するのも、まあ、交渉の余地はあるかなと思っているんですけども。勝手な事言ってますが。

あと、国立の博物館や美術館という公共施設も文化庁が持っていたりする訳ですね。こういう物についても、実際に先日ドラマで撮っているとか、色々と独立行政法人と名前を変えてから、公共施設も非常に柔軟化している傾向にあるって事をご理解いただきたい。5年前は駄目だったものでも、今は大丈夫になっている可能性もありますので、そこは個々の企画をぶつけていただくというのいいかなと思っています。

学校についても、今、廃校というのをかなり利用できる様になっています。廃校したてで、手がつけれないというもので、民間にも売却する予定のないものが、結構地域でも余っている状態です。そういうのをどんどん映画、映像で使っていただくというのいいかな。学校も爆破出来るかもしれませんが、それは周りの状況とか色んなものがあると思います。

それと言い忘れたんですが、警察の立場で言うと、警察はいやだいやだとか、個々具体で判断するから、規制緩和なんか関係ないよと言っているんですね、反面これから地域のニーズがあるものについては、どういう風にイベントを企画するとか、撮影する側と地域と話したらいいかという基準は各警察署に通達を出しましょうという事は、約束してくれているので、早い時期にそういう事になります。まったく無かった個人の力量とか、裁量の世界よりは少し進んだ形になっていく、若干ルールが作られていく動きがあるという事です。これは今年度中だと思えますので、期待を持っていただきたい。

それと、先ほど第1部で寺脇部長から予算の説明がありましたが、正に今日の意見も踏まえてコンセンサスが得られたのは、情報を集約するという事です。どこの地域でどういうものが撮影できるのかとか、どういう風にやったらうまくいったのかとか、そういう情報を全て集約する様な形に使える予算になっていくと、そういう意味では財務省の一人一人の役人が映画に対する評価を高めていくという事をこの年度末までに、頑張らなければならないと思っています。

さらに予算の中でよく見ていただくと、撮影環境と今日大きく言っている中で、実は予算の中で、明示されていませんけどもオープンセットの関係も調査、研究が出来たらいいかなとか。

またCG合成についても、予算と税制改正の方で、ポストプロダクションの機器を最新のものに更新し易くするというのも上がっています。

全般として撮影環境を高めていきたい。かといって、CG合成があればそれで良いという事は全然思いません。やっぱり本当のロケーションというのは、絶対必要です。また、スタジオも必要だ。オープンセットも必要だと。この四つが重なって初めて、良い撮影環境として完成すると我々思っています。そういうバランスを失わない様にやっていくべきだと思っています。

さっきの話に戻りますけども、或る施設に何か話を持っていく場合、学校もそうだと思いますが、文化庁もそうですし、自然公園もそうなんですけれども、姑息なのかも知れませんが、お互いのメリットがあるっていう持っている方が現状では、一番良い方法だという気がします。

例えば、学校だったら「授業に役立てて下さい。みんな参加して下さい。スタッフのインターンシップをやして下さい」という形で持っていけば、大学であろうと、小学校であろうと映像授業とか、映像リテラシーという話の中で、一緒にその学校が使えるのかな。文化庁も、「文化力」が無いから、文化力を高める為には、この映画は文化庁の施設で作らないと駄目ですよ。

前澤 自分の為と言ってるんですね。

坪田 まず、窓口を部長にしていたら、すぐに許可は下りるかもしれない。一寸長くなりますけれど、第1部で言った「文化力」という言葉、今キーワードにしていますけど、初めて聞く方にはすーっと入ってこない言葉かも知れません。ですが、ボディーパーの様に効いてくる言葉だと思います。この「文化力」という言葉を浸透させていけば、絶対映画を含めた文化芸術の見方が確実に変わってきて、人々が大事にするようになると思えば、一人一人の市民というのは警察官だったり、市役所の窓口の人だったり、色んな方がいらっしゃる訳ですから、変わっていきける。これは、長期的な戦略ですけれども、それも思っていますので。その点もこの「文化力」という一つの戦術としてご理解願いたいと思います。

前澤 どうも有り難うございました。長時間に渡り、色んなお話を伺いました。パネラーの皆さん有り難うございました。お客様も有り難うございました。終了時間になりました。今の話の様に、「経済力」というのは割合有名ですけれども、「文化力」というのも、匹敵する力を持っているんだという事で、これから進めて行きたいと思えます。

一つだけご案内があります。申し込みをさせていただいた頃には、上映が決まらなかったんですが、今回、第3部は懇親パーティーと平行で、18時から「らくだ銀座」という映画を地下の小ホールでやります。お時間のある方は是非、ご覧下さい。地域の商店街活性化について、色んな地域の方が全面協力してやっている映画です。

それでは、本当に長い間有り難うございました。とてもこの場所だけでまとまる話ではありません。今日がスタートという事で、これから色々な方と色々な意見を出し合いながら、少しでも撮影環境が良くなるという意気込みを持って、私共も一緒になって遣っていきますので今後もよろしくお願い致します。